

道州制について考える

江口克彦先生と対談



谷岡 樹 会長

会 長：私たち日本青年会議所 近畿地区協議会では昨年作成した提言書

でも「道州制」を力強く推進していかうと考えています。「道州制」については現政権でもかなり力を入れて取り組む政策であります。道州制といいますが、考え方は人それぞれです。本日は近畿地区（二府四県）にテーマを絞ってお話をお伺いしたいと思いま

江口氏：実は「地域主権型道州制」という用語は私が日本で最初に言い始めました。その時からJICの皆さんはその意味を理解して応援してくれているんです。大阪府の橋下知事も道州制の推進派ですね。

会 長：橋下知事は内閣府の地域主権戦略会議のメンバーでもいらつしやいますし、地域主権を実現するために「地方政府基本法」を提唱する発言をされています。地域主権という言葉を実現するために「道州制」という手法を推進されているのではないのでしょうか。

江口氏：広域行政の主張は関西では全国に先駆けて展開されてきました。たとえば昭和34年、松下幸之助は、

県を廃止して州を置くという、広域行政の必要性を訴え続けました。そして、九州が次に、力を入れていたと思います。近年、日本の政府は、特に自民党政権の時に、47都道府県のような小さい都市でも、無駄が多すぎるのではないかと。という考えが浸透してきていま

会 長：さすが関西ですね。「官」よりも「民」の方が先に制度の必要性を訴えていたわけですね。

江口氏：知事というポストは官僚出身、まあ過去官僚（笑）の人が多くて、表現は悪いが「天下り先」みたいになってる。しかも道州制になるとポストが減ってしまうわけですよ。ですからなかなか「道州制」に反対する知事が多いのはそういうことです。

会 長：確かに大阪府の前の知事は官僚出身の方でした。官僚出身の知事は中央とのパイプも太いという利点もあるかもしれませんが、大胆な改革をするのは難しいかもしれませんね。現行制度が制度疲労して先行きが不透明な時代には市民は大きな変化を求めています。

江口氏：橋下知事はかなり勇気がある方だと思えます。あの人は知事になって、大阪を元気にするために、大阪だけで物事を考えていた

のでは小さすぎて駄目だ、大胆に近隣府県、あるいは大阪市と力を合わせて関西、大阪に大きな変化をもたらそうと考えているのではないかと思えます。

会 長：確かに今までの言動を見ていても大阪の知事であるにも関わらず他府県の政策にも大胆な発言をされていますね。

江口氏：例えば観光という視点で考えると、大阪は確かに魅力のある都市ではあります。隣の和歌山には素晴らしい温泉や、奈良のような歴史のある街もあるし、京都のような文化の優れた街もある、また神戸のようにモダンな近代日本を象徴するような街もある。つまり、広域で、ダイナミックな観光開発を考えた方が、その中の大阪として大阪の魅力をもっと訴えられるのです。

会 長：大阪や奈良の水道の問題を解決するためには滋賀県の琵琶湖から考えなければなりませんし、近畿という大きな視点で考えなくてはならない問題がたくさん存在します。

江口氏：橋下知事は、一般府民の視線になつて物事を考えている。知事の発言はすぐマスコミに叩かれるときもあります。本当に一番府民・住民のことを考えている知事



であると思っています。

会 長：大阪の事を、考えれば考えるほど、道州制の方向に行くのは当然のことなんです。

江口氏：そのとおり、結局大阪を発展させるためには大阪だけのエリアだけでは狭すぎる。もっとダイナミックな活動をしなければならぬ。そんな時に大阪府だけという、狭い地域でやっても発想に限界がある。

会 長：全国ではそのような（道州制）動きに賛同されている知事や首長もいらっしやいますね。

江口氏：現在15～16人の知事の人たちは道州制の必要性を訴えています。が、その他の知事は解らないとか

反対だとか言っています。本当に地域の事を考えていないと言っているでしょうね。批判を覚悟で申しあげれば、そのような人達は自分のポストを守るために知事をしているだけ。

会 長：道州制が、選挙の大きなキーマードになればいいのですが、どうしても目先の政策に視点が偏ってしまいう傾向にあります。まだまだ道州制の導入後の地域の形が想像しにくいのだと思います。仮に、今の近畿地区二府四県が州という考え方をした時に、どんなことが実現するのですか？

江口氏：「関西独立のすすめ」という本を書いた時に、関西という地域を大きく発展させていかなければマーケット戦略で海外と戦っていかないといけない。関西が得するよきな考えを関西人はもつと持つべきです。スイスのジュネーブという州はフランスという国と協定を結んでいる。オーストラリアもそう。国家でなくても貿易の話や政治の話もしている。そういうことにより、一つの州が諸外国と接点を持つのですから、ダイナミックでスピーディな政策が実現可能になる。関西州独自でFTAを結ぶことができれば、工業系の輸出入といった貿易が活発にもなりま

す。

(FTA・・・自由貿易協定)

会 長：なるほど！そのような協定を結ぶ権利が州に委ねられることで経済の活性化につながりますね。

江口氏：関西州というスケールで考えると、大阪府も大阪市も仲良くしたらいいんですよ。兵庫は貿易首都として海外からの窓口に、奈良は歴史首都、京都は文化首都、滋賀はリゾート首都にしたらい、和歌山は高齢者首都にしたらい。和歌山には、老人の住みよい街お年寄りが老後を快適に暮らせるような環境がそろっています。

会 長：道州制になったからといってそれぞれの地域の特色を消してしまうことは無いということですね。地域が持っている資本を大いに活用することが出来ますね。

江口氏：ようするに、個性的な拠点をたくさん造ればいいということ。州都なんてどこに造ってもいいんですよ。私は京都の「大山崎」くらいがちょうどいいと思います。またその場所ににぎわいが出る。なにも人が集まるところに造らなくてもいいでしょう。橋下知事のにぎやかでないところを、にぎやかにしていく発想と同じです。WTCに府庁をもっていく構想には私は大賛成です。

会

会 長：関西は、バラエティに溢れた都市がいっぱいありますね。他の地域には申し訳ありませんが、こんな魅力的な地域は日本にはないと思います。海外からの観光客ももっと増える可能性がありますね。

江口氏：今、外国人の観光客が一番泊まる国はフランスのパリで10日間、次にスペイン8日間、日本は2日間、24位です、なぜか？・・・各県単位で観光スポットをつくっているからではないでしょうか。つまりスポーツ観光ですね。例えば東京でも、秋葉原に行つて、夜は三ツ星ホテルでディナー、翌日はディズニールランドで終わり。大分でも湯布院へ行つて、温泉入つてウロウロしながら、また散歩して温泉、一泊ですむ。九州には8つも空港がある、そんなにいらぬでしょう。熊本あたりに巨大なハブ空港を造ればいいんです。そうすれば九州というスケールで海外から観光客を呼ぶことが出来る。

会 長：今度茨城県に新しい空港がオープンしますが、どうして日本にはこんなに空港が多いのでしょうか。しかも採算が取れている空港なんかほとんどありません。

江口氏：そのとおりです。一言で言えば「見栄」です。一つの県に一つの

空港がないと「面子」が立たないと思うのでしょね。都道府県の視点から抜け出すことができないために、効率的に考えることが出来なくなっているのです。ハローワークでも、市がやって府（県）がやって国がやって、3つも重なっている。同じことをしているのでは？一つにした方が効率の良いということがたくさんあります。

会長：例えば、大阪府立病院と大阪市立病院が合併して、専門分野の研究費にあてたら、ものすごい医療の発達があるのではないでしょうか。大阪府と大阪市の合併が実現すれば二つの研究施設が一つですむ経費削減に加えて予算が倍になる可能性がありますね。

江口氏：実際問題そんなに簡単にはいかないと思いますが、府市合併は行うべきです。教育問題でも子ども数が減っているのに大学は多いじゃないですか。国公立の大学は州になったら州立大学を一つ作って、全部分校に分けたらいい、たとえば京都は社会科学専門、大阪は医療専門、神戸は、海外・貿易、和歌山はエネルギーといった分校にわけたら、コストも削減される、大学の先生も特化されるのでより高度な研究が可能になります。

す。

会長：道州制を実現するためには憲法改正が必要なのでしょうか？

江口氏：そのような必要はありません。道州制には、官僚型道州制、言い換えれば「中央集権型道州制」がある、これはただ単に、都道府県を寄せ集めて一つにするだけの。「国のかたち」は全然変わリません。また、「連邦制型道州制」もあり、アメリカ型ですが、こうなると、州憲法・州裁判・州軍隊など・・・これにするには憲法改正が必要です。しかし、私が提唱している「地域志主権型道州制」は、現行憲法のままできる。なぜなら、憲法の中に地方自治に関する項目があるだけですからね。

会長：先生がおっしゃる地域主権型道州制には関西を元気に復活させる夢がありますね。

江口氏：みなさんたち青年の世代が30年・40年・50年先を考えた時に、自分たちはこうしていきいたいんだと、こんな社会にしていきたいんだと

考えて、またひっぱっていく人になって行動を起こしていつて欲しい。憲法を改正しなくてもこの国のかたちを変え、日本を元気にすることは十分に出来ると思います。

会長：タイムリーな話題では仮に大阪府と大阪市が合併したとして大阪に住む人が、この変化の実感を感じるかが今後の「地域主権型道州制」に大きな影響を与えると思います。確かに不便になることも多々あるかもしれませんが、それ以上に魅力的なことがたくさんあれば、市民の力によって国のかたちは変わっていくのではないのでしょうか。このジャッジは道州制への一里塚になるかもしれません。

江口氏：今なにもしなければ日本の未来はない。

来はあまり明るいものではないでしょう。これからの日本の将来のためにも、皆さんのような若い力でこの国の将来像を力強く描き、その実現のために行動して欲しい。期待しています。

江口克彦氏 プロフィール

1940年名古屋市に生まれる。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、松下電器産業株式会社入社。1967年にPHP総合研究所へ異動し、2004年には社長に就任。長年、松下幸之助氏のもとで直接指導を受けられる。現在は株式会社江口オフィスの代表として講演・執筆等、多方面で活躍中。

主な著書

- 『地域主権型道州制』
- 『日本経済危機突破論』
- 『オレが日本を元気にしてやる！』
- 『国民を元気にする国のかたち』
- 『日本を元気にする地域主権』
- 『脱「中央集権」国家論』
- 『いい仕事の仕方』
- 『経営者の教科書』
- 『部下の哲学』
- 『成功するビジネスマン20の要諦』
- 『上司の哲学』
- 『部下に信頼される20の要諦』
- 『成功の法則』

『松下幸之助はなぜ成功したのか』
他多数。

